

2017年5月15日

日本共産党下関市議団
団長 近藤 栄次郎 様

下関市議会議員 片山房一

出張報告書

下記のとおり、出張しましたので報告します。

記

期 日 2015年5月9日～5月10日

出張先 岡山県勝田郡奈義町、兵庫県佐用郡佐用町

用 務 先進的取り組みを行っている自治体視察のため

参加者 近藤栄次郎、江原満寿男、桧垣徳雄、片山房一

視察内容の概要

奈義町役場（5月9日）

- 視察項目 ①子育て支援施策について
②再生可能エネルギーの活用について
③伝統文化の振興について

奈義町の概要 岡山県東北部に位置し鳥取県と接している面積70㎢、人口6100人の町。出生率2.81%の町として有名。

①子育て支援施策について

平成24年に「子育てするなら奈義町で」をキャッチフレーズに掲げ「奈義町子育て応援宣言」のもとさまざまな子育て支援策を実施

子ども医療費助成 高校卒業まで全額助成

高校等就学支援 年額9万円を3年間支給（通学費一部助成）

やすらぎ福祉年金 中学3年までの一人親家庭に年間54000円支給

出産祝い金交付 第1子10万円、第2子15万円、第3子20万円、第4子40万円

子育てアドバイザー常駐のチャイルドホーム開設

ワクチン接種の助成、不妊治療費助成、在宅育児支援手当など、さまざまな施策

②再生可能エネルギーの活用について

住宅用太陽光発電システム設置補助金とともに、木質バイオマスエネルギーの普及と環境に関する住民の意識向上による地球温暖化対策の推進と木材の地産地消を図るため、薪ストーブを設置に補助金を支出している。メガソーラ設置には景観条例で対応している。

③伝統文化の振興について

江戸時代から続く「地歌舞伎」保存継承するため昭和41年に横仙歌舞伎保存会を発足。平成8年には歌舞伎継承のための町職員を採用、こども歌舞伎の開講など全国からも注目を集めてい

る。年4回の定期公演、県内外への出張公演、他の保存団体の支援活動を行っている。「こども歌舞伎」の育成は成果を収めているが、大人の活動に結びついていかないという課題も抱えている。

〔所感〕 人口減少を止めるには子育て支援が最も効果があるということが実感できた。定住促進のための、住宅施策、就労の場の確保など他の施策とも合わせ、町行政の本気の取り組みが、人口減少に歯止めをかけ、高い出生率を生み出している。視察に対応して地元の若いお母さんも出席していただいていたが、行政に対しての信頼感を感じた。

伝統文化の振興でも、翌日視察した佐用町の衰退の傾向との差を感じた。行政の取り組みしだいで、この分野でも地域の財産を生かした町の活性化が図れることの実例を見ることができた。

佐用町役場（5月10日）

- 視察項目 ①福祉・医療施策について
②地域資源を活用した町づくりについて
③伝統文化の振興について

佐用町の概要 兵庫県西部に位置し、西は岡山県と接する人口1万9千人の町。平成17年に佐用町、上月町、南光町、三日月町が合併。

①福祉・医療施策について

昭和58年、旧南光町で設立された町立の歯科保健センターから「80歳になっても20本以上の自分の歯を保とう」という「8020運動」は始まった。現在もその活動は続けられているものの、民間の歯科診療所の設置などにより今後のあり方が議論されている。

町民の健康増進を図る独自の対策として、予防接種費用の公費一部負担により、医療費負担の軽減、疾病の発生及び重篤化を予防する事業を実施している。

②地域資源を活用した町づくりについて

平成21年の台風9号の豪雨災害を契機に、山林荒廃を食い止め木材の有効活用を図るため、太陽光発電設備の架台に木材を活用する事業に取り組む。

佐用・IDECメガソーラー有限責任事業組合（町1.5億円＋民間企業1.5億円）を設立。総事業費15億円で、兵庫県産材のヒノキ1万4千本を使用した、5メガワットの太陽光発電を建設。年間売電収入2.22億円。

③伝統文化の振興について

町内に農村歌舞伎の舞台である国指定重要有形民俗文化財「上三河の舞台」を持つことから、平成4年に南光町子ども歌舞伎クラブが発足。学校、地域、保護者、行政で構成する南光町子ども歌舞伎育成会も組織し活動を続けている。しかし、最近は部員確保が困難、指導者の高齢化などの課題が生まれている。

〔所感〕 下関市と同時期に合併した町である。合併後も比較的小規模の自治体として、きめ細かな施策が行われている。だが、①や③の分野では、旧自治体が持っていた独自の施策が、合併後の平準化の中で失われようとしていることも感じられた。

以上報告します。